


## 統計リテラシー No.9【最終回】

## 研究デザインを読み分ける

## —— RCT・コホート・症例対照・横断研究を比較する

 **今日のゴール：**「この論文はどんな研究か」を見抜き、その強みと限界を即座に語れるようになる。RCT・コホート研究・症例対照研究・横断研究・メタ解析の設計と特徴を理解し、エビデンスレベルの概念を自分の言葉で論述できる。

 この授業の問い

1. 「エビデンスレベルが高い」とはどういう意味か。ピラミッドの頂点が RCT である理由は？
2. コホート研究と症例対照研究の違いは何か。それぞれの適した場面は？
3. 横断研究から因果関係を言えないのはなぜか？

※ 授業後にもう一度この問いを見て、答えを書いてみよう。

 全9回の統合：「研究結果を正しく読む」流れ

この講座（No.1～9）で学んだことを一本の線として整理する。

No.	テーマ	研究への問いかけ
1～2	平均・分散・仮説検定	「この数値は偶然か？」
3～4	感度・特異度・RR・OR・NNT	「どのくらい効くのか？」
5	バイアス・交絡	「この結果は信頼できるか？」
6～7	生存分析・多変量解析	「交絡を除いた真の効果は？」
8	スクリーニング	「誰にどの検査をすべきか？」
9（今回）	研究デザイン	「そもそもどんな研究で調べたのか？」

## 採点者の視点

採点者はここを見ている —— 研究デザイン・RCT・コホート・症例対  
照の問題で合格答案はこういう「構造」をしている

## ① なぜ同じ答えでも評価が違うのか

清光学院の講師陣は、これまでに皆さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何千枚も採点し、合格・不合格の判定を下してきました。その経験から言えることが一つあります。

**「正しい答えを出していても、なぜそう考えたのかが見えない答案は、採点者の印象に残らない。」**

研究デザイン・RCT・コホート・症例対照の問題では、各デザインの選択根拠の理解が答案の質を大きく左右します。

## ② 研究デザイン・RCT・コホート・症例対照の問題で採点者が見ているポイント

「RCTはランダム化によって未知の交絡を制御できるから最もエビデンスレベルが高い」と根拠を示した答案が採点者に明快と映る

 この授業の使い方

各問題のワンポイントには「採点者がどこを評価するか」の視点が含まれています。答えを出すだけでなく、根拠を一文添える習慣を意識しながら取り組んでください。

## ③ 総合型選抜・口頭試問でも同じ構造が問われる

採点者（大学教員）が口頭試問で確認したいのは「答えが出るか」ではなく「思考の構造を説明できるか」です。この授業で習得する「上から俯瞰する」視点は、あらゆる試験形式に通用します。

## 続きは講義でご覧いただけます

この教材には、採点者の視点・核心的な解法・入試問題・演習・まとめがさらに収録されています。

大学教授陣が設計した「普通の授業では出会えない接続点」を体験できる完全版は講義でご提供いたします。

清光学院 AP SEIKO 理系講座 © 清光教育総合研究所